

火災

火災・消防に関する情報入手

- 唐津市消防本部 <https://www.city.karatsu.lg.jp/bosai/shobo/index.html>
- 総務省消防庁 <https://www.fdma.go.jp/>
- 財団法人 日本消防協会 <https://www.nissho.or.jp/>

出火の現場に居合わせたら、まず「通報」「初期消火」「避難」が大切です。優先順位は状況により異なります。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。あわてず冷静な判断を心掛けましょう。

行動1 通報

大声で「火事だ!」と叫ぼう

- 大きな声で叫び、隣近所に知らせてください。声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたいてください。
- どんなに小さな火事でも119番通報をしてください。

行動2 初期消火

出火直後が勝負

- 火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能です。
- コップに入った水や座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用しましょう。

行動3 避難

危険を感じたらすぐ避難

- 避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断しましょう。すみやかに行動をしてください。避難する目安は、天井まで火が燃え移ったときです。


火元別の消火方法を覚えておきましょう

ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射します。石油ストーブの場合は粉末消火器で消火してください。
- 消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断します。


カーテン・ふすま・障子

- カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要です。火がついたら、引きちぎってから消火してください。
- ふすまや障子などはけり倒し、足で踏んで消してください。その後、水をしっかりかけて消火しましょう。



消火器の使い方

- ①安全ピンに指をかけ、上に引き抜きます。
- ②ホースをはずして、火元に向けます。
- ③レバーを強くにぎって、噴射します。




電気機器

- コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火します。泡消火器などは感電のおそれがあるので使用しないようにしましょう。

消火器の構え方

- 火の風上に回ります。
- やや腰をおとして低く構えます。
- 熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わないでください。
- 火を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右にふりましょう。




コンロ(天ぷら油)

- まずコンロの火を消します。水をかけるのは厳禁です。
- 粉末消火器はなべの全面を覆うように、強化液消火器はなべのふちに向け噴射してください。
- 消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断します。

たき火


- 消火器を使いましょう。消火器がない場合は水をかけます。水の準備ができないときは、近くのほぎや木でたたいて消し、その後、水をしっかりかけて消火しましょう。



住宅用防火機器を活用しましょう


火災の発生を早く知る

- 住宅用火災警報器**
煙や熱を感知すると、警報音で知らせてくれます。平成16年の消防法改正により、設置が義務づけられました。



火災の被害を最小限に

- 防災品**
火がついても燃え広がりにくい防災品です。カーテンやカーペット、寝具、エプロンなどがあります。
- 住宅用消火器**
小型で軽量タイプの消火器です。
- 簡易自動消火装置**
火災の熱を感知すると、自動的に薬剤を放出します。
- 住宅用スプリンクラー設備**
火災の熱を感知すると、部屋全体に放水します。



煙の中の避難方法

火災で怖いのは炎と同時に煙です。煙には有毒ガス(一酸化炭素、塩化水素など)が含まれているので、吸い込むと命を落としたり、麻痺などで避難できなくなることもあります。煙は空気より軽いので天井に上がり、横へ広がって床へ下りてきます。煙が上昇している間に、濡れタオルや、水で濡らした袖口などを鼻と口に当てて煙を吸わないようにして、低い姿勢で這うように逃げます。

火災防止に

- 安全装置付調理器具**
異常な過熱や火が起きた際に、自動的にガスの供給を止めます。

